

バランスのとれたレポートと専門家の分析

わずか1ポンドで FT の包括的な報道をお試ください。

1ポンドで試す

ファンド管理

ハセンスタブ、2020年に債券運用会社の中で最大の資金流出に見舞われる

新興市場専門企業の業績不振は昨年も続き、資産が縮小した。



マイケル・ハセンスタブ氏は、長期国債はインフレの脅威を反映していないと信じ、米国債に賭けて大惨事に陥った © Bloomberg

ニューヨークのマイケル・マッケンジー JANUARY 14 2021

毎日の市場最新情報で先を行きましょう。

FTのWhatsAppチャンネルに参加する

テンプレートン・グローバル・ボンド・ファンドを運用するマネージャー、マイケル・ハセンスタブ氏は、債券価格が下落するという悲惨な賭けで資金を失い、2020年に米国の債券ファンドの中で最大の資金流出を経験した。

顧客の大量流出により、同氏の主力ファンドの資産は昨年さらに5分の2減少し、150億ドルを下回る水準となった。これは、同氏が成功していた2014年のピーク時の700億ドル超からは程遠い。

モーニングスターによれば、同ファンドは12月末までに105億ドルの純流出を経験した。12か月間のリターンはマイナス4.2%で、過去5年間のリターンはわずか1.6%だった。

ブルームバーグによると、同ファンドのベンチマークであるFTSE世界国債指数は2020年に10%上昇した。

ハセNSTAB氏は2001年からこのファンドを運用しており、深刻な不況と金融混乱から立ち直ろうとする多くの新興市場経済国にタイミングよく多額の投資をすることで名声を得ている。

しかし、この戦略は最近、同ファンドマネージャーにとってうまく機能していない。特に顕著なのは、ハセNSTAB氏がアルゼンチン政府債務がデフォルトに向かう中で多額のエクスポージャーを抱えていた2019年だ。

Michael Hasenstab's flagship has lost 80% of its assets since peak

Templeton Global Bond Fund assets (\$bn)



Source: Bloomberg

© FT

もう一つの誤った判断は、長期国債はインフレの脅威や政府支出の増加を反映していないというハセNSTAB氏の考えが、米国債に対する悲慘な賭けにつながったことだ。それが裏目に出て、2019年に利回りは着実に低下し、昨年は新型コロナウイルスのパンデミックが激化すると、ゼロをわずかに上回る記録的な低水準にまで落ち込んだ。

モーニングスターは最近、2019年の市場混乱に対するヘッジとして日本円保有にシフトしたが、「2020年初頭の売り出し時にはチームが期待したほどの成果は出なかった」と指摘した。

ハセNSTAB氏と、このファンドを運営する資産運用グループであるフランクリン・リソーシズは、この記事に対してコメントしなかった。

テンプレトン・ファンドからの継続的な資金流出は、ビル・グロスやニール・ウッドフォードなど他の落ちぶれたスター・マネージャーが証言しているように、投資が容赦のない職業になり得ることを思い出させるものだ*。

「投資業界の特徴の1つは、自らの成功の犠牲者になる可能性があることだ」とKBWのアナリスト、ロバート・リー氏は語る。「マネージャーが長い間優秀だった後、パフォーマンスを妨げる逆風に見舞われるという状況にほぼ必ず遭遇する」

リー氏は、パフォーマンスの低いファンドを阻止するのは難しいと付け加えた。「パフォーマンスが上向くと、ファンドへの新規資金の流入が促されるのではなく、解約が抑えられるのが普通です。パフォーマンスが良くなっても資金流入が増えるわけではありません。最高の時でさえ解約はあります。」

ハセNSTAB氏が成功の絶頂期に最も重要なファンドマネージャーに成長したフランクリン・リソーシズの株価は3月の安値から回復し、過去1年間で4%上昇しているが、現在は2015年の半分の価格で取引されている。

同社は近年、テンプレトン・グローバル・ボンド・ファンド以外にも継続的な資金流出を経験しており、昨年4月のパンデミック発生後のインド投資信託からの多額の償還もその1つである。

同社は昨年レグ・メイソンを買収し、運用資産を2倍以上の1兆4000億ドルに増やし、レグ・メイソンの関連会社で債券専門のウェスタン・アセット・マネジメントも買収して以来、償還圧力は続いている。

2018年からカルビン・ホー氏と共同でテンプレトン・グローバル・ボンド・ファンドを運用してきたハセNSTAB氏は、過去1年間に資金流出に見舞われた唯一のスター債券投資家ではない。

ジェフリー・ガンドラック氏が運用するダブルライン・トータル・リターン・ファンドは、昨年4.1%のトータルリターンを生み出したが、純流出額は54億ドルだった。

ダニエル・アイバシン氏とアルフレッド・ムラタ氏が運用するピムコ・インカム・ファンドは純額75億ドル減少した。同ファンドは昨年5.5%のトータルリターンを記録し、ベンチマークであるブルームバーグ・バークレイズ米国総合指数の7.5%の上昇を下回った。

*この記事は、ニール・ウッドフォードが株式投資家であったことを反映するために、初版発行時から修正されています。

[Copyright](#) The Financial Times Limited 2024. 無断転載を禁じます。
